

# 日中平和友好条約締結 45周年記念大集会

中国を仮想敵国に仕立て上げて、着々と戦争準備に突き進んで良いのか。中国は敵ではない。  
—日中友好こそ、日本の最大の安全保障の一つだ—



日中平和友好条約批准書に調印する園田直外務大臣と黄華外交部長 1978年10月23日、東京

2023 **8/10** **木**

14:00 ~ (開場 13:30)

13時30分から、衆議院第一議員会館ロビーで入館カード配布

衆議院第一議員会館・地下1階・大会議室

※必ず、事前申し込みが必要です

申し込み先：多くの参加者が想定されます。定員(300名)に達し次第、申し込みを締め切りますので、恐縮ですが、なるべく早めに、以下のメールまで申し込みを、お願いいたします。

E-mail: [murayamadanwa1995@ybb.ne.jp](mailto:murayamadanwa1995@ybb.ne.jp)

※集会妨害は、固くお断りします。速やかに退場してもらいます。



日中平和友好条約は、今から45年前、1978年8月に福田起夫内閣によって、日本と中国の平和友好関係を強固なものにし、発展させることを目的として、北京で調印された。一衣帯水の日中関係には、山あり谷ありの経過があった。多くの先人たちの命がけの努力の上に、困難な時代を乗り越え、今日の日本と中国の重層的な関係が創り上げられた。特に、19世紀以降の歴史においては、日清戦争で台湾を割譲させ、その後、中国に侵略するという罪深い歳月が含まれていることを忘れてはならない。

また、日中平和友好条約締結45周年の節目に際して改めて想起し、確認するべきは、日中国交正常化は、日本が「中華人民共和国政府が中国の唯一の合法政府であることを承認する」こと(日中共同声明第2項)、中国に対する侵略戦争の「責任を痛感し、深く反省する」こと(同前文)によって可能となったこと、また、日中平和友好条約では「相互の関係において、すべての紛争を平和的手段により解決し及び武力又は武力による威嚇に訴えないことを確認」していること(第1条2)である。

米国の言いなりに、「台湾有事」を口実に、反中国包圍網に突き進むのではなく、正常な善隣友好関係を取り戻さなければならない。

多くの皆さんとともに、21世紀のアジア・中国との関係はどうあるべきなのか。日中友好のあり方を未来思考で考えたいと思います。

「日中平和友好条約締結45周年」という重要な時期に際し、本記念大集会では、鳩山友紀夫・第93代日本国総理大臣から記念講話を伺います。

呉江浩・中華人民共和国駐日本国特命全権大使に、ご出席を賜わり、来賓御挨拶をいただきます。国際政治の権威である浅井基文・元広島平和研究所所長が、「日中平和友好条約締結45年 バイデン・岸田対中対決政治は清算しなければならない」と題して、記念講演をされます。

元経産官僚で、「分断と凋落の日本」で安倍政治の弊害を鋭く指摘し、映画「妖怪の孫」の企画・プロデューサーも務めておられる古賀茂さん、実業界で大活躍されている人材派遣会社 ザ・アール創業者の奥谷禮子さん、カナダを拠点に、国際的な視点から言論活動を続けられている、ピース・フィロソフィー・センター代表の乗松聡子さん、沖縄の視点からアジアとりわけ日中関係について、全国で講演活動を展開されている、沖縄大学地域研究所特別研究員の泉川友樹さん、50数年にわたって、日中友好と経済発展のために、尽力されてきた、日中一帯一路促進会代表の大野芳一さんから御発言をいただきます。そして特別ゲストとして、東方文化芸術団団長の田偉さんから、日中友好の想いをこめて独唱をしていただきます。

これらの日本を代表する、知の巨人のお話は、興味深い講演になると思います。多くの皆様方のご出席をお待ちしています。